

2015年1月

第52号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888



年頭にあたって

あけましておめでとうございます。
希望に満ちた新年をお迎えのことと思います。

さて、昨年1年を振り返ってみますと、経済面では株高・円安が進み輸出関連企業は堅調に推移し、雇用面も改善が進んできております。しかし、4月に消費税が8%に引き上げられた以降は駆け込み需要の反動からGDPの伸び率も鈍化し一進一退の動きのまま越年することとなりました。

明るいニュースとして第1に挙げられるのは、「青色LEDを開発した赤崎勇教授、天野浩教授、中村修二教授の3氏がノーベル物理学賞」に輝いたことでしょう。第2はソチ五輪や世界選手権で大活躍をしたフィギュアスケートの羽生結弦選手、世界ビックタイトル戦で活躍したテニスの錦織圭選手は国民に大きな感動と勇気を与えてくれました。第3は「iPS細胞から作った網膜細胞を目の難病患者に世界初の移植に成功」いよいよiPS細胞の実用化に踏み出したことは多くの難病患者に夢と希望を与えてくれました。

また、「富岡製糸場と絹産業遺産群」「日本の手漉き和紙」など日本の古くからの伝統と技術等が認められユネスコから世界文化遺産として認定され登録されたこともうれしいニュースでした。

一方、「STAP細胞論文の改ざん不正問題」、朝日新聞の「従軍慰安婦報道の一部撤回・福島原発の吉田調書をめぐり誤報問題」などは事前検証で十分防止可能な事案でありながら日本国民の信用を毀損させた残念なニュースでした。

さらに、「広島市北部の集中豪雨による土砂災害で74名死亡」「御嶽山の火山噴火により登山者57名死亡・6名行方不明」など今年も自然災害による痛ましい悲しいニュースがありました。

外交問題では、小笠原諸島沖では中国漁船が200隻を超える船団で珊瑚密漁、尖閣問題と併せて新たな問題として浮上しましたが、ニコリともしない習近平中国国家主席と安倍総理が握手する場面もありました。

世界的には「エボラ出血熱のため7000人以上が死亡」し、現在もその対策に追われています。

新しい年はどんな年になるのでしょうか。経済対策が最優先課題だとして、「少子高齢化」「社会保障」「地方創生」「女性の活用」「集団的自衛権」「エネルギー問題」「拉致問題」「TPP問題」等々問題が山積しています。

今年は「未年」。羊は群れをなし家族の安泰を示し、いつまでも平和で暮らすことを意味していると言われております。様々な問題をみんなで力を合わせて一つ一つ解決し「経済力の向上」や「諸外国と仲良く交流」できる平和で安定した1年であってほしいと願っております。

「社内にはいい空気を」

慶応義塾大学 名誉教授 村田昭治

景気回復期に大事なことのひとつは、仕事を片づけるというのではなく、真剣に真正面から取り組むことではないだろうか。

商品もサービスも取引活動もすべて、美しさと品格があることが必要だ。長年続いた価格破壊は品質破壊を起し、それが悪い影響を与えて品性・品格を破壊しているのではないだろうか。そうならないうちに、品格訴求社会を実現せねばなるまい。そこにこそグレードアップ、クオリティアップに励み、精力に富む企業経営が成り立っていくのではあるまいか。

心ぬきをするな。一つひとつの仕事に心がこもっていることはお客さまの気持ちを明るくするし、熱気が伝わってきてうれしいものだ。それが仕事の基本であろう。

横見をせずに自分自身を見つめ、お客様の動きを観、お客さまの声を聴いて、それに真っすぐにお応えしよう、そして期待され尊敬される企業になっていこうという真情を全員がもつことだ。

「会議が多くて」とこぼす企業幹部がよくいる。会議を多くしている理由があるから多くなるのだ。会議は短く、伝達はパソコンやメモでなく、口頭でするようにすれば、企業はずいぶん変わるだろう。味のある、人間味のある、信頼感あふれる企業にもなっていくだろう。

山本七平氏に『空気の研究』という著作がある。

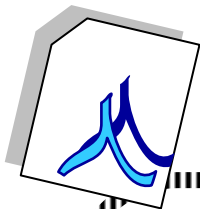
組織には必ず流れや空気が生まれてくる。その空気をどのように創り上げていくかは社員全体の働きによるが、リーダーが空気づくりに大きな役割を果たすのも事実だ。

いい空気を創れる人はさわやかな気概をもち、健全な志をかざし、全員に幸せを分かち合う思惟をもっている。それが企業家精神という空気なのではないか、と思うようになった。

いま、わが国の会社のなかに、そうした空気の研究、空気づくりが求められているのではないだろうか

「人を惹きつける経営」より





勝 海舟 (江戸末期から明治初期の武士、政治家)

1823年(文政)6年1月30日	江戸本所亀沢町、父は旗本小普請組(41石)の勝小吉、母は信子の下に生まれる。10代の頃から島田虎之助に入門し剣術・禅を学び直神影流剣術の免許皆伝となる。
1838年(天保)9年7月27日	家督相続し、小普請組に入り、40俵扶持。
1845年(弘化)2年	永井青崖に蘭学を学び私塾「氷解塾」を開く。
1856年(安政)3年3月11日	講武所砲術指南役となる。6月30日小十人組から大番に替わる。
1860年(安政)7年1月13日	アメリカ派遣を命ぜられ、品川から咸臨丸で出航。5月7日江戸に帰府。
1864年(元治)元年5月14日	作事奉行次席軍艦奉行、役高2000石。
1868年(慶応)4年1月17日	海軍奉行並、役高5000石。1月23日陸軍総裁に異動。
同年3月13日・14日	薩摩藩江戸藩邸にて西郷隆盛と会見。同日、江戸城無血開城。
1869年(明治)2年7月18日	維新政府の外務大丞に任官。
1872年(明治)5年5月10日	海軍大輔に任官。翌年、参議、海軍卿如元。
1888年(明治)21年10月	正三位に昇叙し、枢密院顧問官如元。
1898年(明治)31年2月26日	勲一等旭日大綬章を受ける。
1899年(明治)32年1月19日	逝去 享年76歳。

オススメの BOOK



『土漠の花』

作者 月村 了衛

幻冬舎

作者は吉川英治文学新人賞に輝いた経歴がある。

本書はソマリアの海賊に対処すべく派遣された陸上自衛隊第1空挺団の精鋭たちに次から次へとふりかかる災い、執拗な敵の追撃、命懸けの壮絶な撤退戦の物語。

三船敏郎を主演とする「7人の侍」「椿三十郎」などのアクション映画を思い出した。本書はまさに現代版アクション・冒険物語である。手に汗握るシーンの連続。面白いの一言に尽きる。



1年の計（1年の計画を立てましょう）

新しい年を迎えました。

「1年の計は元旦にあり」といわれるように、年の初めに、今年1年何をするのか計画を決めておくことはとても大事です。清々しい気持ちで夢を描こうではありませんか。夢を持つことによって、仕事にも張り合いが出てきます。目標をはっきり立てることにより、新たな仕事もしやすくなるでしょう。良い1年にするのも、そうではなくなるのも、決めるのは自分の心です。早速、今年の目標づくりに着手しましょう。

ユニークな挨拶（心の通う挨拶を交わしましょう）

朝の慌ただしい時間帯に、家族との出がけの挨拶をどのように交わしていますか。儀礼的に「行ってきます」「行ってらっしゃい」と挨拶を交わしていませんか。「行ってらっしゃい。車に気をつけてね」と、相手を気遣う言葉を添えた挨拶が交わされている家庭もあるでしょう。

ある夫婦の挨拶はユニークです。妻が「働き者のお父さん、行ってらっしゃい」と声をかけます。次に夫が「別嬪さんのお母さん、行ってきます」と返すのです。毎朝繰り返されるお互いを思いやる優しい声の響きは二人の元気の源になっているそうです。



たかが挨拶、されど挨拶です。

当たり前のように行っている家庭での挨拶を少し変えてみませんか。家の空気もどこか変わるかもしれません。

あなたの姿が（人から見られていることを自覚しましょう）

昔よく面倒を見ていた近所の子供が成長し、取引先の現場で担当者として久しぶりの再会をしました。仕事の話も順調に進み、昔話に花が咲きました。

「君はなぜこの仕事を選んだの？」と彼に質問しました。すると、「いつも笑顔で仕事から帰ってくるSさんの姿が印象的でSさんのように笑顔になれる仕事がしたいと思い、今の仕事を選びました」という答えが返ってきました。Sさんは、そんな風に見られていたことに感激し、嬉しく思う反面、今の自分が笑顔で仕事と向き合っているだろうかと反省しました。人は誰でも、多くの人に見ながら生活を送っています。その時々のは、様々な形で、いろいろな人に知らぬ間に影響を及ぼしています。だからこそ、自分の行いに責任を持ち、良き影響を及ぼせる自分になれるよう行動しましょう。

職場の教養1月号から3話を載せましたが、いつも心温まる教養に感動しています。人との出会いは全て「学びのため」「人としての成長のために」あるのではないのでしょうか。

【編集後記】

子供の頃、正月を迎える我が家では神棚、台所、米びつ、井戸、仕事道具など日常お世話になっている様々なものにお供えとお燈明をあげ拍手を打ち日頃のお礼と感謝の念を表したものだ。

家族は多勢で本当に貧しい生活の中ではあったが、新しい年をみんな健康で迎えることができたことに喜びを感じ、様々なものに感謝の念を抱くことで満足感のようなものを味わうことができた。こんな些細な行事の中でも幸福感を味わうことができる。ありがたいことだ。